

市立札幌病院緩和ケア内科  
緩和医療専門研修プログラム

令和6年12月1日策定

## 目次

1. 概要	・・・3
2. 緩和ケアを実践する医師の資質と態度	・・・5
3. 研修項目	・・・6
4. 研修の方策	・・・16
5. 評価	・・・17

## 1.概要

### プログラム責任者

緩和ケア内科 医長 萩原 綾希子

### プログラム対象者

- 1) 日本緩和医療学会緩和ケア認定医、専門医の資格取得をめざす医師
- 2) 緩和ケアを専門としないが緩和ケアの研修を希望する医師

### 当院育成プログラムの特色

- ・症例数が豊富であり緩和ケアチームのコンサルテーション活動を通して幅広い病期の緩和ケアやチーム医療を学ぶことができます
- ・非がんの緩和ケアにも積極的に取り組んでいます
- ・経絡刺激や神経ブロックなども積極的に行っています
- ・精神科、歯科口腔外科、放射線治療科をチームメンバーに有しており緩和ケアに関わる幅広い研修が可能です
- ・当院にはない緩和ケア病棟や在宅医療を関連病院として研修できる体制としています
- ・スタッフのワークライフバランスを大切にしている職場です

### 研修のメリット

当科の研修で下記の資格の要件を達成可能です

## 緩和医療学会専門医

- ・ 認定研修施設で2年以上の緩和医療の臨床研修
- ・ 20例の症例報告
- ・ 緩和ケア研修会の修了

## 緩和医療学会認定医

- ・ 専門的緩和ケアの現場で6ヶ月以上の臨床経験を積み、かつ同現場で50例の症例を担当
- ・ 5例の症例報告

## 緩和ケアチーム診療実績

### 2023年度介入依頼件数

入院依頼総数	658件
がん実数	548件
がん延べ介入日数	10394日
非がん実数	110件

### 依頼内容

疼痛	390件
疼痛以外の身体症状	439件
精神症状	210件
家族ケア	35件
倫理的問題	20件
地域連携・退院支援	21件
その他	3件

### 依頼時期

診断から初期治療前	45件
がん治療中	374件
がん治療終了後	129件

## 2. 緩和ケアを実践する医師の資質と態度

緩和ケアの定義：緩和ケアは、生命を脅かすような疾患、特に治癒することが困難な疾患を持つ患者 および家族のクオリティー・オブ・ライフ（QOL）の向上のために、療養の場にかかわらず病気の全経過にわたり医療や福祉及びその他の様々な職種が協力して行われるケアを意味する。緩和ケアは、患者と家族が可能な限り人間らしく快適な生活を送れるように提供され、その要件は以下の 5 項目である。

- (1) 痛みやその他の苦痛となる症状を緩和する
- (2) 人が生きることを尊重し、誰にも例外なく訪れる『死への過程』に敬意を払う
- (3) 患者・家族の望まない無理な延命や意図的に死を招くことをしない
- (4) 精神的・社会的な援助やスピリチュアルケアを提供し、最後まで患者が人生を積極的に生きていけるように支える
- (5) 病気の療養中から死別した後に至るまで、家族が様々な困難に対処できるように支える

1. 医師は緩和ケアが患者の余命に関わらず、その QOL の維持・向上を目指したものであることを理解する。患者や家族のニードは常に変化し、ケアの目標も変化するため、常に見直しを行うことが必要である。

2. 全ての患者は、異なった人生を生き、死に直面している。医師は病気を疾患としてとらえるだけでなく、その人の人生の中で病気がどのような意味をもっているか（meaning of illness）を重要視しなければならない。医師は、患者、家族を全人的に、身体的だけではなく、心理的、社会的、霊的（spiritual）に把握し、理解する必要がある。

3. 医師は、患者のみならず、患者を取り巻く人々もケアの対象であることを理解する。

4. 医師は、患者にとって安楽なことが、個々人で全く違うものであることを理解し、患者の自律性や選択を重要視する。

5. 緩和ケアを実践する医師は医師として医学的判断や技術に優れていることが最も重要だが、それと同時にコミュニケーション能力も重要である。患者、家族、そして医療チーム内で良好なコミュニケーションをとることができる必要がある。

6. 医師は、診療にあたって十分な説明とそれに基づく患者および家族の同意（informed consent）を得ることが必要不可欠であり、必要に応じて、セカンドオピニオンに配慮する。

7. 医師は緩和ケアを行うチームの中でその一員として働くことが重要である。チームメンバーのそれぞれの専門性と意見を大切にし、チームが円滑に運営されるよう常に心がける必要がある。

### 3.研修項目

ここでは、緩和医療専門医を目指す医師の研修目標を以下の項目に分けて提示した。

一般目標（General Instructional Objectives: GIO）患者の苦痛を全人的苦痛（totalpain）として理解し、患者・家族の QOL の向上のために緩和ケアを実践し、さらに本分野の教育や臨床研究を行うことができる能力を身につける。

<コース一覧>

#### コース 1. 包括的評価

GIO: 患者を全人的に理解し、苦痛だけでなく患者の支えとなるものをとらえることができる

#### コース 2. 痛みのマネジメント

GIO: 患者の痛みを評価し、薬物療法だけでなく、非薬物療法を含めた様々な手段を使い、痛みを緩和することができる

#### コース 3. 痛み以外の身体症状のマネジメント

GIO: 痛み以外の症状について評価を行い、薬物療法だけでなく、非薬物療法を含めた様々な手段を使い、それらの症状を緩和することができる

#### コース 4. 精神症状のマネジメント

GIO: 精神症状について評価を行い、薬物療法だけでなく、非薬物療法を含めた様々な手段を使い、それらの症状を緩和することができる

#### コース 5. 非がん疾患の緩和ケア

GIO: 非がん疾患患者に対して、専門家と協力しながら緩和ケアの適応について検討し、適切に緩和ケアを提供することができる

#### コース 6. 心理的反応

GIO: 心理的反応を評価し、適切に対応することができる

#### コース 7. 社会的問題

GIO: 社会的問題を評価し、適切に対応することができる

#### コース 8. スピリチュアルケア

GIO: 患者のスピリチュアルペインを正しく理解し、適切な援助をすることができる

#### コース 9. 倫理的問題

GIO: 緩和ケアにおける倫理的問題を理解し、適切に対応することができる

#### コース 10. 意思決定支援

GIO: 患者・家族の意向を尊重し、意思決定支援を行うことができる

#### コース 11. コミュニケーション

GIO: 患者の人格を尊重し、コミュニケーションをとることができる

#### コース 12. 苦痛緩和のための鎮静

GIO: 苦痛緩和のための鎮静を適切に行うことができる

#### コース 13. 疾患の軌跡

GIO: 疾患の軌跡について理解し、予後の予測をすることができる

#### コース 14. 臨死期のケア

GIO: 臨死期における患者・家族に対して適切に対応することができる

コース 15. 家族ケア

GIO: 家族が抱える問題に気づき、家族のケアを適切に行うことができる

コース 16. 遺族ケア

GIO: 死別・喪失による悲嘆反応に気づき、適切に対応することができる

コース 17. 医療従事者への心理的ケア

GIO: 自分自身およびスタッフの心理的ケアを行うことができる

コース 18. チーム医療

GIO: チーム医療を実践することができる

コース 19. コンサルテーション

GIO: 緩和ケアについてのコンサルテーションを適切に実施することができる

コース 20. 地域連携

GIO: 地域の医療機関と連携して、それぞれの地域に適した医療を提供することができる

コース 21. 腫瘍学

GIO: 腫瘍学についての知識を得、患者にとって最善の医療の選択に関わることができる

コース 22. 教育・研究

GIO: 緩和医療の専門家として、常に最新の知識を得るだけでなく、緩和ケアの教育・研究にも携わり、緩和医療の発展に寄与することができる

## 個別行動目標 (Specific Behavioral Objectives:SBOs)

### コース 1. 包括的評価

GIO: 患者を全人的に理解し、苦痛だけでなく患者の支えとなるものにとらえることができる

SBOs :

- ① 全人的苦痛の概念について述べるができる
- ② 患者の苦痛を多面的にとらえることができる
- ③ それぞれの苦痛に対して、マネジメントのプランを列挙することができる
- ④ 患者の希望、信念、価値観などの多様性について配慮し、患者の意向に沿った治療目標をたてることができる
- ⑤ 苦痛の早期発見、治療や予防について配慮することができる

### コース 2. 痛みのマネジメント

GIO: 患者の痛みを評価し、薬物療法だけでなく、非薬物療法を含めた様々な手段を使い、痛みを緩和することができる

SBOs :

- ① 痛みの定義を述べるができる
- ② 痛みの成因やそのメカニズムについて述べるができる
- ③ 痛みのアセスメントについて具体的に説明することができる
- ④ 痛みの種類と、典型的な痛み症候群について説明することができる
- ⑤ WHO 方式がん疼痛治療法について具体的に説明することができる
- ⑥ 神経障害性疼痛について説明する ことができる
- ⑦ 痛みに対するケアについて述べることができる
- ⑧ WHO 方式がん疼痛治療法に準じて、痛みに対する薬物療法を適切に選択することができる
- ⑨ 患者の状態に合わせて適切にオピオイドを選択することができる
- ⑩ 必要に応じて鎮痛補助薬を選択することができる
- ⑪ 薬物の経口投与や非経口投与を適切に行うことができる
- ⑫ オピオイドの副作用に対して、適切に予防、処置を行うことができる
- ⑬ オピオイドによる精神依存について理解し、対応することができる。
- ⑭ 放射線療法の適応について考慮することができ、適切に施行するか、もしくは専門家に相談および紹介することができる
- ⑮ 外科的療法の適応について考慮することができ、適切に施行するか、もしくは専門家に相談および紹介することができる
- ⑯ 神経ブロックの適応について考慮することができ、適切に施行するか、もしくは専門家に相談および紹介することができる
- ⑰ 非がん性疼痛を評価し、対応することができる

### コース 3. 痛み以外の身体症状のマネジメント

GIO: 痛み以外の身体症状について評価を行い、薬物療法だけでなく、非薬物療法を含めた様々な手段を使い、

それらの症状を緩和することができる

SBOs :

以下の症候や疾患に適切に対処することができる

- ① 倦怠感
- ② 食欲不振
- ③ 悪液質症候群
- ④ 悪心・嘔吐
- ⑤ 消化管閉塞
- ⑥ 便秘
- ⑦ 下痢
- ⑧ 腹水
- ⑨ 腹部膨満感
- ⑩ 吃逆
- ⑪ 嚥下困難
- ⑫ 口腔・食道カンジダ症
- ⑬ 口内炎
- ⑭ 口渇
- ⑮ 黄疸
- ⑯ 呼吸困難
- ⑰ 咳嗽
- ⑱ 胸水
- ⑲ 気道分泌過多
- ⑳ 尿失禁
- ㉑ 排尿困難
- ㉒ 乏尿・無尿
- ㉓ 水腎症（腎瘻の適応を含む）
- ㉔ 血尿
- ㉕ 褥瘡
- ㉖ 皮膚潰瘍
- ㉗ 瘙癢
- ㉘ 痙攣
- ㉙ ミオクローヌス
- ㉚ 四肢および体幹の麻痺
- ㉛ 振戦・不随意運動
- ㉜ せん妄
- ㉝ 浮腫
- ㉞ 発熱

コース 4. 精神症状のマネジメント

GIO: 精神症状について評価を行い、薬物療法だけでなく、非薬物療法を含めた様々な手段を使い、それらの症状を緩和することができる

SBOs :

以下の症候や疾患に適切に対処することができる

- ① 抑うつ
- ② 適応障害
- ③ 不安
- ④ 睡眠障害

#### コース 5. 非がん疾患の緩和ケア

GIO: 非がん疾患患者に対して、専門家と協力しながら緩和ケアの適応について検討し、適切に緩和ケアを提供することができる

SBOs : 以下の疾患に、専門家と協力して適切に対処することができる

- ① 肝不全
- ② 呼吸不全
- ③ 心不全
- ④ 腎不全
- ⑤ 神経・筋疾患
- ⑥ 認知症
- ⑦ 後天性免疫不全症候群 (HIV/AIDS)

#### コース 6. 心理的反応

GIO: 心理的反応を評価し、適切に対応することができる

SBOs :

- ① 否認や怒りなどの心理的反応を認識し、適切に対処することができる
- ② 悲嘆喪失反応が様々な場面で、様々な形で表れることを理解し、それが悲しみを癒すための重要なプロセスであることに配慮することができる
- ③ 心理的防衛機制について、配慮することができる

#### コース 7. 社会的問題

GIO: 社会的問題を評価し、適切に対応することができる

SBOs :

- ① 医療保険制度、介護保険制度などの社会保障制度を理解している。
- ② 患者や家族のおかれた社会的、経済的問題に配慮することができる
- ③ 家族間の問題に配慮することができる
- ④ 患者・家族の社会的、経済的援助のための社会資源を適切に紹介、利用することができる

## コース 8. スピリチュアルケア

GIO: 患者のスピリチュアルペインを正しく理解し、適切な援助をすることができる

SBOs :

- ① スピリチュアルペインの代表的なカテゴリーを理解している
- ② 診療にあたり患者・家族の信念や価値観を尊重することができる
- ③ 患者や家族、医療者の死生観がスピリチュアルペインに及ぼす影響と重要性を認識することができる
- ④ スピリチュアルペイン、及び宗教的、文化的背景が患者の QOL に大きな影響をもたらすことを認識することができる
- ⑤ 患者・家族の持つ宗教による死のとらえ方を尊重することができる

## コース 9. 倫理的問題

GIO: 緩和ケアにおける倫理的問題を理解し、適切に対応することができる

SBOs :

- ① 医療における基本的な倫理原則について述べるすることができる
- ② 緩和ケアにおける倫理的問題について説明することができる
- ③ 緩和ケアにおける倫理的問題について、倫理原則にもとづいて多職種スタッフと検討することができる
- ④ 患者が治療を拒否する権利や他の治療についての情報を得る権利を尊重することができる
- ⑤ 治療の中止・差し控えについて、適切に対応することができる
- ⑥ 尊厳死や安楽死について社会的議論を把握している

## コース 10. 意思決定支援

GIO: 患者・家族の意向を尊重し、意思決定支援を行うことができる

SBOs :

- ① Advance Care Planning の概念について述べることができる
- ② 患者・家族と治療およびケアの方法について話し合い、治療・ケアの計画をともに作成することができる
- ③ 患者や家族の治療に対する考えや意志を尊重し、配慮することができる
- ④ 患者の自律性を尊重し、意思決定支援を行うことができる
- ⑤ 療養場所を決定する際に必要な情報を提供し、意思決定支援を行うことができる

## コース 11. コミュニケーション

GIO: 患者の人格を尊重し、コミュニケーションをとることができる

SBOs :

- ① 患者が持つコミュニケーションスタイルやコーピングスタイルを理解し、適切に対応し、援助することができる
- ② 悪い知らせを患者・家族に伝える具体的な方法について述べるすることができる

- ③ 言語的なコミュニケーションだけでなく、非言語的なコミュニケーションにも配慮することができる
- ④ 患者に病気の診断や見通し、治療方針について適切に伝えることができる
- ⑤ 患者の希望、意向や価値観について傾聴することができる
- ⑥ 患者からの困難な質問や感情の表出に対応することができる

#### コース 12. 苦痛緩和のための鎮静

GIO: 苦痛緩和のための鎮静を適切に行うことができる

SBOs :

- ① 苦痛緩和のための鎮静の適応と限界、その問題点について述べるすることができる
- ② 患者と家族に鎮静について説明し、必要時に適切な鎮静を行うことができる
- ③ 他の医療従事者からの鎮静についての相談に応じ、適切に対応することができる
- ④ 鎮静についての社会的な議論について把握している

#### コース 13. 疾患の軌跡

GIO: 疾患の軌跡について理解し、予後の予測をすることができる

SBOs :

- ① 疾患による軌跡の違いについて述べるすることができる
- ② 予後予測ツールを理解し、限界についても述べるすることができる
- ③ 予後予測にもとづき、患者・家族に適切な説明をすることができる

#### コース 14. 臨死期のケア

GIO: 臨死期における患者・家族に対して適切に対応することができる

SBOs :

- ① 患者が死に至る時期および死後も、患者を一人の人として、尊厳を持って接することができる
- ② 看取りの時期及び死別直後の家族の心理に配慮することができる
- ③ 看取りの時期であることを適切に判断できる
- ④ 終末期の輸液について十分な知識を持ち、適切に施行することができる
- ⑤ 患者と家族の意向を尊重し、患者の病態にあわせて看取りに向けて必要な指示を出すことができる
- ⑥ 看取り前後に必要な情報を、適切に家族に説明することができる

#### コース 15. 家族ケア

GIO: 家族が抱える問題に気づき、家族のケアを適切に行うことができる

SBOs :

- ① 家族背景を把握することができる
- ② 家族の構成員が持つコミュニケーションスタイルやコーピングスタイルを理解し、適切に対応することができる
- ③ 家族の構成員がそれぞれ病状や予後に対して異なる考えや見通しを持っていることに配慮することができる

- ④ 家族の負担感や疲労に気づき、適切に対応することができる

#### コース 16. 遺族ケア

GIO: 死別・喪失による悲嘆反応に気づき、適切に対応することができる

SBOs :

- ① 死別・喪失による悲嘆反応のパターンについて述べるができる
- ② 複雑な悲嘆反応をきたしやすい条件（リスクファクター）を述べるができる
- ③ 予期悲嘆に気づき、適切に対応することができる
- ④ 死別を体験した人を支援することができる
- ⑤ 複雑な悲嘆反応に気づき、適切に対応することができる
- ⑥ 抑うつを早期に発見し、専門家に紹介することができる

#### コース 17. 医療従事者への心理的ケア

GIO: 自分自身およびスタッフの心理的ケアを行うことができる

SBOs :

- ① チームメンバーや自分の心理的ストレスを認識することができる
- ② 自分自身の心理的ストレスに対して、他のスタッフに助けを求めることの重要性について理解することができる
- ③ 自分自身の個人的な意見や死に対する考え方が患者およびスタッフに影響を与えることを認識することができる
- ④ ケアが不十分だったのではないかと自分、およびスタッフの罪責感をチーム内で話し合い、乗り越えることができる
- ⑤ スタッフサポートの方法論を知り、実践することができる
- ⑥ スタッフが常に死や喪失体験と向き合っているということを理解し、正常の心理反応といわゆる燃え尽き反応を区別することができる

#### コース 18. チーム医療

GIO: チーム医療を実践することができる

SBOs :

- ① チーム医療の重要性と難しさを理解し、チームの一員として働くことができる
- ② リーダーシップの重要性について理解し、チーム構成員の能力の向上に配慮することができる
- ③ 他職種のスタッフ及びボランティアについて理解し、お互いに尊重しあうことができる
- ④ 基本的なグループダイナミクスとその重要性について述べるができる

#### コース 19. コンサルテーション

GIO: 緩和ケアについてのコンサルテーションを適切に実施することができる

SBOs :

- ① コンサルテーション活動について述べることができる
- ② 依頼者からの依頼に応じて、適切な推奨および直接ケアを行うことができる
- ③ 推奨および直接ケアは患者や家族の個別性に配慮し、診療ガイドライン等に基づいて行うことができる
- ④ アセスメントや推奨の内容について依頼元の医療従事者と話し合うことができる
- ⑤ 必要に応じて、依頼元の医療従事者とカンファレンスを行うことができる

#### コース 20. 地域連携

GIO: 地域の医療機関と連携して、それぞれの地域に適した医療を提供することができる

SBOs :

- ① 自分が所属する組織の地域における役割を述べるができる
- ② 周囲の医療機関と協力して、緩和ケアを提供することができる
- ③ 地域の医療資源、社会資源を把握することができる
- ④ 患者と家族が希望する療養場所に移行できるよう支援することができる
- ⑤ 在宅医療に携わる医療従事者と連携し、在宅緩和ケアについて相談または実践することができる

#### コース 21. 腫瘍学

GIO: 腫瘍学についての知識を得、患者にとって最善の医療の選択に関わることができる

SBOs :

- ① 基本的な腫瘍学に関する知識を得ることができる
- ② 外科療法の適応について理解し、適切に専門家に相談することができる
- ③ 放射線療法の適応について理解し、適切に専門家に相談することができる
- ④ がん薬物療法の適応について理解し、適切に専門家に相談することができる
- ⑤ 以下に挙げた腫瘍学的緊急症に対して、専門家と協力して適切に対処することができる
  1. 高カルシウム血症
  2. 抗利尿ホルモン不適切分泌症候群 (SIADH)
  3. 上大静脈症候群
  4. 肺血栓塞栓症
  5. 大量出血 (吐血・下血・咯血など)
  6. 脊髄圧迫
  7. 頭蓋内圧亢進症
- ⑥ わが国におけるがん医療の現況について述べるができる

#### コース 22. 教育・研究

GIO: 緩和医療の専門家として、常に最新の知識を得るだけでなく、緩和ケアの教育・研究にも携わり、緩和医療の発展に寄与することができる

SBOs :

- ① 臨床現場で起こる日常の疑問について、常に最新の知識を得るよう心がけることができる
- ② 教育の基本的な手法について知り、実践することができる
- ③ 所属する各機関及びその地域において緩和ケアの教育・啓発・普及活動を行うことができる
- ④ 臨床研究の重要性を知り、緩和ケアに関する未解決な問題に対して行われる臨床研究に参加することができる
- ⑤ 医学論文の批判的吟味を行うことができる
- ⑥ 緩和ケアに関する学会・研修会に積極的に参加し、診療・研究業績を発表することができる

#### 4. 研修カリキュラム

##### ○ 臨床研修の一例(モデルコース)

	研修内容		
1 年目	緩和ケアチーム・外来		
2 年目	緩和ケア病床	サイコオンコロジー	自由選択

- ・2年間の研修を基本としますがそれより短期、長期のプログラムにも対応します。
- ・プログラムの組み方は相談に応じます。
- ・内科プログラム研修、精神科、放射線治療科、放射線診断科などとの連携、もしくは緩和ケア病床ではなく緩和ケア病棟での研修、在宅緩和ケアでの研修も希望する場合はご相談下さい。
- ・女性医師、育児など、様々なライフステージを支援します。

## 5.評価

研修項目	態 度	技 能	知 識	研修項目	態 度	技 能	知 識	研修項目	態 度	技 能	知 識	研修項目	態 度	技 能	知 識	補足説明
1.症状マネジメント				1.症状マネジメント(続き)				3.心理社会的側面				6.倫理的側面				スピリチュアルペ インカテゴリー
がん疼痛				腎・尿路系				心理的反応				医療上倫理的問題 への気づき				精神的穏やかさの 喪失
侵害受容性				血尿				怒り				患者権利の理解・尊 重				意味・目的の喪失
神経障害性				尿失禁				罪責感				患者協同での治療 計画作成				自分らしさ
非がん疼痛				排尿困難				否認				尊厳死・安楽死への 対処				寂しさ・支えのなさ
消化器系				膀胱部痛				沈黙				倫理委員会へ問題 提出				家族の準備の心配
				水腎症				悲嘆								関係についての葛 藤
食思不振				慢性腎不全				コミュニケーション				7.チームワークとマネジメント				負担をかけている思 い
嘔気				中枢神経系								チーム一員としての 姿勢と業務				身体的コントロール の喪失
嘔吐												病状把握状況・評価				チーム構成員の能 力向上
便秘				原発・転移脳 腫瘍				診断(悪い知らせ)・ 方針伝達				他専門医からの選 択肢提示				将来のコントロール の喪失
下痢				頭蓋内圧亢 進				時機に適した必要 情報伝達				周辺医療機関との 協力				役割の喪失
消化管閉塞				けいれん発作				困難な質問・感情へ の対応								楽しみの喪失
腹部膨満感				四肢・体幹麻 痺				恐怖・不安の表出と 対応				8.研究・教育				自分らしさの喪失
腹痛				神経筋疾患				自立性尊重と支援				医学論文批判的吟 味				しておきたいこと
吃逆				腫瘍随伴症 候群				社会経済的問題の理解と援助				体系的文献検索				こころの準備・死の 不安
嚥下困難				精神症状								二次資料の利用				希望のなさ
口腔食道カンジ ダ												社会資源の紹介と 利用				教育基本手法習得・ 実践

口内炎			抑うつ					啓発・教育普及活動				(コメント)
黄疸			適応障害					研究会参加・業務の発表				
肝不全			不安				家族ケア	家族スタイルの理解・対応・援助				
肝硬変			不眠					9.臨死期患者・家族への対応				
呼吸器系			せん妄				死別による悲嘆反応	臨死期への全人的対応				
			怒り				予期悲嘆への対応	臨死期・死後の心理配慮				
咳			恐怖				死別体験者のサポート	病態に合致した治療選択				
痰			その他				家族への死別準備の促進	家族へ看取り情報の提供				
呼吸困難							悲嘆反応の予測・対応	家族受容判断と死亡確認				
死前喘鳴			悪液質				抑うつの早期発見・専門家紹介	剖検必要時の説明・支援				
胸痛			倦怠感									
誤嚥性肺炎			リンパ浮腫				4.自分自身およびスタッフの心理的ケア	10.その他				
難治性肺疾患			認知症				ケア罪責感話合いと乗り越え	本邦ホスピス・緩和ケアの歴史展望			氏名 ( )	
皮膚の問題			緊急症への適切な対応				スタッフサポート法 認知と実績				研修期間： 年 月 日～ 月 日	
	褥瘡			高Ca血症				燃え尽き反応の鑑別				2.腫瘍学
ストマケア			上大静脈症候群				5.スピリチュアルな側面	各悪性腫瘍の基本的治療法			研修病院	
皮膚潰瘍			脊髄圧迫				スピリチュアルケア	外科治療の適応・方法				
皮膚掻痒症			(補足:鎮静)				(補足説明参照)	放射線治療の適応・方法			指導医署名	
								化学療法の適応・方法				
			適応/限界、問題点					本邦のがん医療の現況の認知				